

令和3年度 千歳市市民評価会議議事録

| | | | |
|-----|-------------------------|----|-----|
| 会議名 | 市民評価会議（第7回） | | |
| 日時 | 令和3年7月15日（木）14：00～16：00 | 場所 | 庁議室 |
| 出席者 | 委員：5名、アドバイザー：1名、事務局：4名 | | |

| | |
|------|---|
| 会議概要 | <p>今年度市民行政アセス対象となった9施策について、各委員から出された意見に基づき、事務局で評価報告書（案）として取りまとめ、市民評価会議に諮った。</p> <p>本会議において、評価報告書の加筆修正を行い、内容について全委員の承認を得た。</p> |
|------|---|

ヒアリング・評価内容

◎評価報告書（案）全体の内容確認

【事務局】

評価全般に関する意見の⑤「各種団体に対して行われている補助事業のうち、人件費に関する補助については、最低賃金の変化が踏まえられず、毎年同額を補助している様子が伺える。補助算定にはこうした社会情勢を適切に踏まえていただきたい。」については、すべての施策に共通している事項ではないことから、評価全般に関する意見ではなく、各施策においての意見と考えるため、削除すべきと考えるがいかがか。

【委員A】

どのくらいの施策が該当するか確認しているか。

【事務局】

すべてを確認するのは困難である。

【委員B】

今回の意見は、「施策7. 中小企業の支援」の中で考えたことで、最低賃金が増えているのだから、補助金額も見直す必要があるのではないかというものである。

【アドバイザー】

すべての施策に共通するものではないので、施策7への意見として記載した方が適切かもしれない。今回、評価全般への意見としたのは、施策7だけでなく、他の施策にもありえる事態なのではという思いからである。

もう一つの提案だが、今回、報告書には記載せず、事務局に依頼し、今後の予算要求に向けてこのことを伝えるよう依頼してはどうか。

【委員C】

アドバイザーが全体への意見としたのは、人件費について絞った意見か。

【アドバイザー】

そうである。他の施策についてもこのようなケースがあるのではないかと、という思いがあり記載すべきと考えていたが、事務局が言うようにすべての補助金に言えるものではない、というのも理解できる。

【委員A】

事業担当課に意見を言っても、変えることができない、というのが実態だろう。

【アドバイザー】

補助金を受ける側から意見を出していない、というのも実態だと思う。

【事務局】

今回は報告書には掲載せず、事務局から財政担当に意見があったということを伝えるということではよいか。

【委員B】

了承した。

【委員A】

このような意見があったということを、しっかり伝えてほしい。うやむやにするのは良くない。

【事務局】

そのほか『拡充』から『維持』に変更となったものが1施策あったため、修正している。

【委員A】

評価報告書（案）全体については、他に修正なしということではよいか。

—異議なし—

(1) 救急医療体制の充実

内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

【事務局】

意見「市民へのPRは様々な方法で取組まれているが、デジタル化の推進は有効である一方、手に取って分かりやすい千歳版の小冊子の作成等、効果的な広報活動に務めて欲しい。」について、意見・質問シートにもあった「ホームドクターという小冊子の千歳版」の作成については、関連する取組として必要と考えるが、「救急医療体制の充実」を達成するための主要な取組内容ではないため、削除してよいのではないかと考える、と担当課からの意見があった。

【アドバイザー】

主要な取組内容ではないため削除するということは、他の施策がメインで行っている取組なのだろうか。市民からの意見なので、主要な取組でなくても、関わる取組なのであれば記載すべきだと思う。

削除するのではなく、意見を「コンビニ受診などの緊急性のない救急利用の抑制に向けては、デジタル化の推進に加え、手に取ってわかりやすい千歳版の小冊子の作成などが効果的であると考える。よって他施策と連動した施策の展開を行ってほしい。」としてはどうか。

【事務局】

修正については、担当課に確認する。

次に、意見「ちえネット制度は在宅医療・介護の連携などにも有効な重要な仕組みであるが、多くの医療機関及び他機関が情報を共有できるような事業にすることが必要ではないか。」について、意見・質問シートにおいても回答しているとおり、施策を達成するための連携する取組として、急病センターも一医療機関として同制度に参加しているものであるが、千歳市地域連携ネットワーク運営協議会（事務局：市立千歳市民病院）において実施している別事業であるため、削除してよいのではないかと考える、と担当課からの意見があった。

【委員A】

別施策への意見であるため削除してほしいということだが、どこからが別施策なのかというのは、資料を見ただけでは判断できない。

【アドバイザー】

削除するのではなく「在宅医療・介護を受けている市民にとっても「ちえネット制度」は有効な取組であると考えている。よって千歳市地域連携ネットワーク運営協議会と連携を密にし、在宅医療・介護を受けている市民に対する医療体制の充実に務めてほしい」としてはどうか。

【事務局】

修正については、担当課に確認する。

次に、意見「施策の評価指標は、絶対的な利用対象者増となる状況において根拠に乏しく、見直しが必要である。」について、特に修正はないのだが、単に成果指標の設定が適切でないという趣旨の意見であればよいが、「絶対的な利用対象者増となる状況」の意味が不明であるため、その意味合いによっては、担当部としての所見が変更になる可能性がある、とのことであったので、趣旨を確認したい。

【委員B】

絶対的な利用対象者増というのは、人口増加・高齢者人口の増加に対応するものという意味合いで、指標がこれで大丈夫なのかと認めての意見である。

(2) 成熟した市街地の形成

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

【委員A】

担当課から修正依頼はないようなので、委員からの意見がなければこのままとする。

(3) 市民相談の充実

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

【アドバイザー】

本施策については、委員間で評価が分かれた。

委員Cからの意見では、本施策を「拡充」しても弁護士などの外部へお願いしなければならないものが増えているので、施策の評価としては、「維持」としたところである。

(4) 環境学習の推進・環境保全における地域間交流等の推進

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

【アドバイザー】

委員Aからは、「環境保全における地域間交流等の推進」を縮小してはという意見があり、理由のところに施策の統合を促したところである、その点については問題ないか。

【事務局】

第7期総合計画では、統合しており、問題ない。

(5) 特別支援教育の充実

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「重点化」

【事務局】

担当課から評価理由の「特別支援教育は、共生社会を築くうえで重要な施策であり、モデル事業実施を契機に独自の教育環境整備や中高一貫の取組を行っていることが評価できる。」について、「中高一貫の取組」という表現だと、中高一貫教育を実施していると誤解を受ける恐れがあるため、「小学校入学前から中学校卒業後まで関係機関との連携による一貫した支援の取組」または「中高連携の取組」の表現のほうが適していると考え、との意見があったがいかかがか。

【アドバイザー】

修正案に「卒業後まで」と記載しているので、担当課の修正案で問題ないと思う。

【事務局】

次に意見の「一方、地域共生社会は社会的包摂の概念が重要となっており、地域社会と融合した施策の展開が必要である。」について、「地域社会と融合した施策の展開」については、教育という個別具体の施策を推進している教育委員会が取り組むべき課題としては、テーマが大き過ぎるように感じる。障がい者福祉全体の方針として整理することが適当であり、障がい者福祉施策で取り組むべき課題のような印象が強い。なお、「地域共生社会との融合」の理念を否定するつもりはなく、むしろ目指す方向性は一致していることから、個別具体の対応を行っている教育委員会の立場としては、「地域共生社会との融合」に向けて、主体的に「施策を展開」するのではなく、「地域社会との融合を目指した取組の推進」が適当と考える、との意見があったがいかがか。

【アドバイザー】

修正案については問題ないと思う。千歳市は、福祉部門もしっかり取り組んでいるので心配ないのではないかな。

【委員C】

拡充を維持にした具体的な理由が必要だと思うが、どこで表現するのか。

【アドバイザー】

維持としているのは、現在の取組を評価してのものなので、拡充する必要はないという理由になっている。

【委員C】

取組が具体的でないから「維持」にしたというのを伝える必要はないのか。

【事務局】

あくまで担当課の自己評価であり、問題ないと考える。

(6) 郷土資料の公開と活用

・ 施策内容の方向性「拡充」 実施コストの方向性「重点化」

【アドバイザー】

本施策も意見が割れた。方向性は担当課と同じく「拡充」だが、その意味合いが違うと感じたので、その部分を意見に記載した。

【委員D】

千歳は、市内のあらゆるところで埋蔵物が発掘されている。それらを回るコースがあるとよいと思うが、そのためには案内できる人材が必要だ。ガイドボランティアも育てていない。

【委員C】

時間が足りないのだと思う。時間とともに成熟していくのではないかな。

(7) 中小企業の支援

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

【アドバイザー】

「拡充」にすべきとの意見もあったが、「拡充」にしても今なにかするのか方向性が見えていない、という委員Cからの意見もあり、「維持」としている。

維持とはするが、必要に応じて拡充してほしいという意味合いを、意見に込めている。

【委員A】

応援したい気持ちはあるが、担当課からの具体的な取組が今は見えないというのが実態。

【委員C】

何をすれば良いのか見えないのが現状だと思う。単にお金の支援をするだけでは限界がある。各企業がどうあるべきか、考えなくてはいけない時だ。こうしたときに中小企業に対し適切なア

ドバイスができるのか、という気持ちもあって「維持」とした。

今後どうしていくのか考えていかなければならない。

【アドバイザー】

他の施策にも言えることだが、市としての主体性、商工会議所との関係性を明確にする必要がある。

(8) 農業の担い手の育成・確保

・ 施策内容の方向性「維持」 実施コストの方向性「維持」

【事務局】

担当課から、意見の「担い手不足への対応として、ICT活用やスマート農業などの推進と併せた施策の展開が必要である。」について、「ICT活用やスマート農業」を「ICTを活用したスマート農業」にしたいとの修正案があるがいかがか。

【委員A】

問題ない。

千歳市は、スマート農業を推進できる地域だと思うので期待したい。市内全域でそのような取組が可能だと思う。

【委員B】

現状で自動トラクタを使っているのは岩見沢市くらいではないか。

【委員C】

水田や芋などであれば機械化できるのだが、千歳市は葉物などが多いので、スマート農業が進んでも人手は必要だ。

大規模農業をしようと思うと春先に初期投資が必要。夏にならないと採れなくて、資金繰りが難しいという問題ある。北海道の農業は、今後、日本全体にとって極めて重要なものだと思う。

【委員B】

今後も食の需要が下がることはないし、農業は非常に重要な産業だと思う。